

令和3年度第3回喜多方市地域公共交通会議 会議録

1 開催日時 令和3年12月17日(金)午前10時～11時15分

2 開催場所 喜多方市役所 ホール棟二階 大会議室

3 出席者

(1) 委員 21名

遠藤 忠 一 委員	津 田 弘幸 委員	林 浩一郎 委員	五十嵐 武 委員
今井 誠 委員	渡 部 幸博 委員	鈴木 敏 生 委員	星 隆 委員
安 田 茂 委員	斎藤 憲 一 委員	橋谷田 弘由 委員	大竹 トモ子 委員
越 戸 直 委員	佐藤 秀 樹 委員	櫻 澤 一朝 委員	渡辺 貴 智 委員
五十嵐 敦 委員	渡部 和 昭 委員	斎 藤 進 委員	安藤 義 弘 委員
大 島 鉄三 委員			

※欠席委員 9名

山内 富士夫 委員	澤 井 淳 委員	宍戸 紳一郎 委員	山田 保道 委員
遠藤 章 委員	山 内 浩 委員	小林 茂 行 委員	穴澤 正志 委員
添田 孝 夫 委員			

(2) 事務局

事務局長 (企画政策部地域振興課課長)	山口 和志
事務局 (企画政策部地域振興課課長補佐)	外島 誠司
同 (企画政策部地域振興課副主任主査)	高橋 孝
同 (企画政策部地域振興課副主任主査)	渡部 秀明

(3) 公共交通計画策定調査業務受託事業者
株式会社ケー・シー・エス福島営業所

(4) オブザーバー

会津乗合自動車株式会社担当者 1名
各関係市町村(会津若松市・会津坂下町・北塩原村)公共交通担当者 3名
熱塩加納総合支所住民課公共交通担当者 1名
塩川総合支所住民課公共交通担当者 1名
山都総合支所住民課公共交通担当者 1名
高郷総合支所住民課公共交通担当者 1名

4 配布資料

- ・令和3年度 第3回喜多方市地域公共交通会議次第
- ・喜多方市地域公共交通会議委員等名簿
- ・喜多方市地域公共交通計画概要版
- ・喜多方市地域公共交通計画(素案)

5 会議の経過

(1) 開会

(2) 会長あいさつ

(3) 議題

規約第8条第1項の規定により、会長である遠藤忠一委員が議長となり以下、議事進行を行う。

・喜多方市地域公共交通計画の素案について、公共交通計画策定調査業務受託事業者である株式会社ケー・シー・エス福島営業所より資料を元に説明。

・議長が意見・質疑を求めたところ、次の意見があった。

(委員) 利用促進ツール(AI導入含む)について予算の概算は出ているのか。

(事務局) 現在、いくつかの事業者に情報をいただきながら費用の概算は把握しておりますが、新年度予算の査定も終えていないことから、詳細については現段階では申し上げることはできません。なお、AI導入に当たってはシステム構築に係る費用としての初期投資とランニング費用として通信費等の経費を見込んでいます。

(委員) 最終的には予算を掲示し事業者の説明するのか。

(事務局) 運用に当たっては公共交通会議の予算に組み込み、運行していただく市内運行事業者への十分な説明を行った上で運用したいと考えております。追って委員の皆さまには詳細が決まり次第、予算を含め事業説明をさせていただきたいと考えております。

(委員) 了解しました。

(委員) 高齢者の免許返納促進に力を入れていただきたい。事故が無いのが幸いだが、高齢で運転している人は多い。しかし、公共交通網から外れた地域の人からすれば公共交通の利便性は低く、自動車を利用しているのが状況。以前、個人的には学区内を循環する(路線バス)構想もあったが、専門家に考えてもらい実践して欲しい。

(委員) 私自身も運転免許を自主返納した。まだまだ大勢の人が運転していると思う。確かに車がないと不便だが、私は公共交通を利用している。公共交通を利用する際に時間が合わないという話を聞くが、利用する側がバス時間に合わせて利用するという考え方も必要ではないか。停留所が遠い等不便もあるが、3日に1回は(まちなか循環線)利用している。バスで行けない所は市からの助成券を使いタクシーを利用している。高齢者にとって公共交通は必要であるので、良い方向で見直しを進めていただきたい。

(事務局) 市として返納者に4万円の補助(タクシー、みんべえ号のいずれか一つ)を行っています。こういった支援を継続し、免許返納の推進をしていきたいと考えております。

また、まちなか循環線は現状1日10~11人、1便1人位の厳しい状況にあり、今年度3月いっぱい実証期間を終える予定となっているため、今後において継続、見直し等について改めて提案していきたいと考えております。

(委員) (公共交通の)エリア外の人が公共交通を利用する認識がない。家族が説得しても返納する気がない。

(委員) 中央通りは銀行、買い物に必要、定期的に回って欲しい。

- (委 員) 高齢者が停留所まで歩くのが難しいため、停留所制は無理だろう。戸口から戸口までが良い。
- (委 員) 停留所降りて向かいの店に行く際、横断が危険。横断歩道を造っていただきたい。
- (委 員) 会議を聞いていると全ての話は繋がっていると考える。近年、高齢者の徘徊が増えている。そういった情報を集め、高齢者がどこに出かけるのか高齢福祉課等と連携すれば有効な運行できるのでは。3月に死亡事故があったが、被害者は徒歩移動していた。そういった方も公共交通を使えば事故防止になる。
なお、市が免許返納者へ助成を始めてから50件/年だった免許返納が250件超えになり、200件を下回ることがない。
また、横断歩道はたくさん作ることもいいことかもしれないが取り締まりも厳しくしている。3年前までは福島県の横断歩道での停止率は3%だったが、取締りで30%まで改善している。(バスの) 停める方法の工夫も事故防止には必要だと思う。
- (委 員) 皆さまから貴重なご意見をいただきました。会津若松市でAIを活用して運行している。スマホに入れたアプリのよる仮想バス停や予約システムで便利に乗ることができる。少子高齢化によって利便性や効率性を高める上で避けて通れない道である。一つネックはスマホを使えるか。交通に限らずITに疎い方は様々な分野で格差が出てしまう。
- (議 長) スマホを持っていない人の対応はどうするのか。
- (事務局) 電話予約は今後も継続します。また、スマートフォンの使い方教室も行いながら端末からの予約(普及率)を上げていきたいと考えております。
- (議 長) それぞれの立場からの意見もお願いします。
- (委 員) 熱塩加納黒岩で89歳の運転死亡事故があった。周りの人からは返納を勧められていたが、山奥では運転せざるを得ない。返してしまうと生活できない問題がある。高齢者の通院、買い物は考えていかなければならない。
- (議 長) デマンド交通は過疎地域の対応はどのようになっているのか。
- (事務局) 黒岩方面はデマンド交通では空白地帯となっています。代わりに夢の森まで運ぶ福祉バスがあります。交通空白地をゼロにするのが理想的ではありますが、冬場、車で行けない所もある現状です。地区の方の意見を聞きながら引き続き検討をしていきたいと考えております。
- (議 長) どこに住んでいても行政サービスが受けられるというのが憲法でも定められています。公共交通計画を作る上で、県や国、関係省庁としっかり連携しながら対応していかなければならないと考えております。
- (委 員) 公共交通で時間がかかってもやむを得ないと思う。高齢者だけでなく若い方も含めて地域全体のための公共交通を作ってもらいたい。義理堅い高齢者にとっては当日になってのキャンセル等が精神的な負担になる。
また、山都の場合、鉄道を利用するには跨線橋を渡らなければならない身体的負担等、色々な課題があるが進めていただきたい。

(委 員) 山間部であれ、街なかであれ事業者との連携が大事だと思う。皆さんにも是非乗っていただきたい。

(事務局) 貴重なご意見をありがとうございます。免許返納も毎年 200 件近くある中で、利用者のニーズを踏まえ、安心・安全なより良い公共交通システムを構築していきたいと考えております。

(議 長) 皆さまのご意見を聞きながら、より良い公共交通を作って参ります。他に無いようですので、以上で議事・協議を終了させていただきます。

(4) その他

(5) 閉会